8403 たとえば,「真実の愛は・・・」という言い方・・・

たとえば,「真実の愛は・・・」という言い方がある．そういう言い方をされるたびに，考える．

――この世の愛に，真実の愛や虚偽の愛があるのだろうか？　もし，あるとしたら，わたしの場合は，すくなくとも真実の愛ではなかったかも知れないな．

だからといって，わたしは，ふざけているわけじゃない．ここで，かりにふざけたとしたら，これまでにわたしが愛してきた女性たちに済まないし，その誰よりも，このわたし自身に済まないと思う．

青木雨彦『冗談の作法』

［許容訳例］

For example, there is an expression “true love….” Every time I hear it I think: is there really such a thing as “true and “untrue” love? If there is, my love may not have been true, to say the least.

This doesn’t mean that I take the subject lightly. If I were to at this point, I’d feel guilty toward the women so far; and more than any of them, I’d feel guilty toward myself.

［翻訳例］

For example, some people are fond of talking about “true love.” Every time I hear the expression, it makes me think: can what people call love really be classified into “true” and “false”? If it can, then in my case the love may not have been true, at the very least.

This doesn’t mean, though, that I take the subject lightly. Supposing I were to at this point, I’d feel guilty toward the women in my past; and more than anyone else, I’d feel guilty toward myself.

■たとえば,「真実の愛は・・・」という言い方がある．(8403)

★「たとえば」は for example でしょう．他に for instance があり，これも使えます．ただ，for instance の方は使い方がちょっと具体的で狭いような気がします．つまり,「一例をあげれば」という感じになり，あまり漠然とした意味では使わないようです．

★「真実の愛」は“true love”でしょう．この true は本来は faithful（浮気をしない）という意味だったと思いますが，使っているうちに意味が広くなって，現在では日本語の「ほんとうの愛」と同じように使っていいるようです．なお，real love と言うこともできますが，true love の方が「(よく考え見ると) 真実の愛は・・・」という内容の深い意味でよく用います．real love の方はもう少し軽い日常的な感じで，たとえば，That’s not real love but just a temporary infatuation.のように使います．ここの場合，どちらでもいいと思います．また，Love is really…という言い方も考えられますが，イントネーションにもよりますが，Love is really…と言うと「愛というものは(一見違うかもしれないがその本質をよく考えてみると)

本当は・・・ということになる」といった感じになると思います．たとえば，This novel is really a kind of long essay.のように．ですからこの場合，もし副詞を使うとすれば，Love is essentially…（愛の本質は何かというと・・・）となります．

★「・・・という言い方がある」を There is a way of saying…とすることは出来ません．a way of saying は「表現の仕方・方法」で，これは，たとえば，His way of saying “Thank you” is peculiar.とか That’s a funny way of saying.のように使います．また「真実の愛」(true love) なら「意味をなす一つのユニット」なので an expression が使えるのですが,「真実の愛は･･･」となっているので使えません．それに，ここの「言い方」は「表現の仕方・方法」を言っているのではなく，言っている内容そのものを指しているわけです．ちょっと日本語の表現とは違っているように見えるかもしれませんが，some people are fond of talking about “true love”が内容的には合っていると思います．some people are fond of…は日本語にはないわけですが，次の「そういう言い方をされるたびに」という部分を考え合わせると，決して over-translation ではないという気がします．

■そういう言い方をされるたびに，考える．(8403)

★「そういう言い方」は前の文を受けるので this とか it です．such…というと，必ずしもそのものではなく似たようなものでもかまわないわけですから，ここでは駄目です．

★「(そういう言い方）をされる」は I hear the expression とか，あるいは，somebody uses this expression to me とすれば「・・・言い方をされる」という感じが出せると思います．

●［関係性指標］(たびに)

「・・・たびに」には every time がいいでしょう．代わりに whenever も使えますが，これは，必ずしも「たびに」ではなく，たとえば Wherever I go there, he’s always sitting in his chair smoking a cigarette.のように，「いつも・・・である」に重点があり，「・・・たびに」の意味を狭く具体的にするために，自然に every time を使うのだと思います．

★「考える」は I think でもいいですが，ちょっと弱いと思います．it makes me think とか I start thinking でもいいでしょう．こうすると，読者に何を考えるのかという期待を抱かせる感じになります．

●コロン(:)

日本文は「考える」でいったん文章が切れていいますが，次の文が「考える」内容なので，英語ではコロンでつないだ方がいいと思います．

■この世の愛に，真実の愛や虚偽の愛があるのだろうか？(8403)

●「隠れ連体修飾節の「の」」(この世の愛)

「この世の愛」とはどういう愛なのでしょうか．love in this world というと，何となく哲学的な感じで，「この広い世界にはたして・・・があるのだろうか」ということになって，ちょっと違う感じがします．よく考えてみると，ここで言う「この世の愛」の「の」は，いわゆる連体修飾節を端折る場合の「の」で，「人々がよく口にする愛」，つまり，「いわゆる愛（というもの)」(what people call love)ではないかと思います．

★「真実の愛や虚偽の愛があるのだろうか？」を，そのまま英語にすうと Is there really a true love and a false love in what people call love?になりますが，なんだか意味がよく通じません．この「・・・があるのだろうか」をそのまま英語にしようとするとどうしても無理が生じます．少し難しい表現を使うことになりますが，日本文で言いたいことは，たとえば，Can one really distinguish between the true and the false in what people call love?あるいは Can what people call love really be classified into “true” and “false”?ではないでしょうか．英語と日本語の本質的な表現の違いがこういうところにもあると思います．

■もし，あるとしたら，わたしの場合は，すくなくとも真実の愛ではなかったかも知れないな．(8403)

★「もし，あるとしたら」は If there is, then…とか Supposing there is, then…でしょう．上で One can really…を使ったのなら If one can, then…です．なお，この場合，then を入れたくなるのは，たぶん，then を入れることによって，単なる仮定ではなく，もっと内容的に logical な感じにしたいということだろうと思います．

★「わたしの場合は」は my love か，in my case が使えます．

★「すくなくとも」は at (the very) least です．あるいは to say the least (of it)も可能です．

★「真実の愛ではなかったかも知れないな」は my [the] love may not have been true/ it hasn’t been (a) true (love)です．「・・・じゃなかった」は，先を読めばわかるように，すでに終わってしまったことではなく現在も含めた今までの愛という意味が入っているわけだから have been です．

■だからといって，わたしは，ふざけているわけじゃない．(8403)

★「だからといって・・・」は，this[that] doesn’t mean でいいのですが，場合によっては前に but を付けたり，後ろに though を入れたりします．I know you don’t like her, but that doesn’t reason you have to hate her cat.（彼女が好きでないことは知っているよ．だからといって，彼女の猫まで嫌いになることはないだろう）のように．

★「ふざけているわけじゃない」は that I take the subject lightly.でしょう．この場合の subject は，もちろん the subject of love ということです．「・・・わけじゃない」は(It is[was]) Not that…です．たとえば，Yesterday at Mr. Tanaka’s they served sushi. I didn’t eat any myself. Not that I don’t like sushi--it was just that I had a cold and had no appetite.（昨日，田中さんとこで寿司が出た．僕は口にしなかった．寿司が嫌いなわけじゃない．ただ風邪を引いていて食欲がなかったんだ）とか，It’s not that Tom isn’t a very nice person. It’s just that I don’t want to marry him.（トムがいい人じゃないって言っているわけではないの．ただ，彼とは結婚したくないだけ．）のように使います．

■ここで，かりにふざけたとしたら，これまでにわたしが愛してきた女性たちに済まないし，その誰よりも，このわたし自身に済まないと思う．(8403)

★「ここで」は難しいですが，at this point と訳していいと思います．

★「かりにふざけたとしたら」は，前の文を受けて If I were to か，Supposing I were to で

しょう．特に Supposing I were to にすれば，可能性がかなり少ないことになります．

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（これまでにわたしが愛してきた女性たち）

「これまでにわたしが愛してきた女性たち」は「連体修飾節（これまでにわたしが愛してきた）＋不定代名詞的体言（女性たち）」ですから「名詞(the women)＋関係詞節(I've loved so far [in the past])となります．

★「済まない」は，前の Supposing [If] I were to を would で受けて I'd feel guilty とするのが一番いいと思います．guilty という言葉は，必ずしも罪悪感といった重苦しい感じなしに「申し訳ない」といった感じでよく日常会話で feel guilty [bad] toward(s) somebody の形で使います．なお，ここで sorry は使えないと思います．sorry というのは，本来 I wish it hadn't happened という意味が中心になると思います．たとえば，I'm sorry I did that.(=I wish that such a thing had never happened.)とか I'm sorry your father died.(=I wish it had never happened.)のようになります．逆にこの場合 feel guilty は使えないわけです．

●「同時」の［し］

「済まない［し］・・・」の［し］は，この場合 and で次に続ければいいと思います．

★「その誰よりも」は more than any of them でもいいし，more than anyone else でもかまいません．

★「このわたし自身に済まないと思う」は I'd feel guilty toward(s) myself とすれば「この」を訳す必要はありません．